

十二支の年占いによれば、卯(兎)年は、「草木がよいよ地面をおし開き、地上に萌えだす年」となっている。又、方位で言うと卯は東に当る。時計回りで子(鼠)は零時即ち北の位置、従って卯は3時で東の位置となる。東は「日の出の陽気に通ずる」と言われる。占いは当るも八卦、当らぬも八卦であるが、悪い年回りだと言われるよりは多少気分が良い。

来年の辰(龍)年はどうか。「草木が勢いよく伸びる年、強運の年」と出ている。又龍は中国の古代から瑞兆とされている。瀧が三段になっている黄河の難所「龍門」は普通の川魚では上り切れない。そこを稀に見る勢いの強い鯉が上り切ると龍に昇華するとの伝説から来た「登竜門」と言う言葉があるのは皆さまご存じの通りである。このことから来年に向かって何か明るい気持ちが開ける様だ。

所で昨今は新聞を見てもテレビを見ても不況一色である。たしかに一昨年後半以来の不況は産業界(生産業だけでなく流通業、建設業等凡そ事業と名のつく世界)の殆どにとって大変きびしい。これについては多くの経済学者等が解説しておられるので私のような凡夫が論ずべき所ではない。只、今回不況の引き金の一つとなった“ある現象”について一言だけ述べておきたい。

それは97年11月の北拓・山一の倒産劇についてである。大きな銀行や証券の倒産はよもやあるまいと誰もが信じていた我国でこの二社が相次いで倒れた為、国中が先行きを懸念し守りの姿勢に入る端緒となった出来事である。この倒産には諸々の原因があった。しかし直接の引き金となったのはヘッジ・ファンドの空売りである。両社の株式価格がまだ2~3百円であった所に目をつけ、これは儲けの材料になると見当をつけたのであろう。97年10月に先ず北拓株を、次いで11月に山一株に対し烈しい空売りをはじめた。併せて向こうの企業格付会社と「ぐる」になって二社の評価を極端に下げる、その結果株債は急落、ついに倒産一売買停止一整理ポスト入りとなる。株価は1円か2円に下ってしまう。ここで悠々と買戻し作業に入る。この手法でヘッジ・ファンドは北拓で200億円、山一で1500億円の利益を上げたと言う。正にシャイロック商法である。

しかしこのことは何処に遠慮してか、新聞では報道されなかった。只、京大名誉教授の伊藤光春先生がこの事実を鋭く指摘された(THIS IS YOMIURI98年5月号)。そのほかタイ・パーツで投機に走り発展途上国を苦しめたことは記憶に新しい。彼等には仕事を通じて社会・人類の発展に寄興しようなどと言う倫理性はかけらもない。ひたすら儲ければよいのである。

人の良すぎる日本人もこの辺で騙されない様に留意すべきではなかろうか。只、余談ながらロシア投機で彼等が損失を蒙ったと云うニュースを聞いて溜飲の下がる思いがした。

粗てもう一つ不況感を増幅しているものにマスコミの報道がある様に思う。私の敬愛する東海大学の唐津一先生も、著書や講演の中で「マスコミ不況」と云うことをよく仰言っている。同先生の説によれば良い所は良いのであって、明日にも日本経済が潰れる様な書き方をしないで欲しいと主張されている。

成程成田を見てもスキー場・温泉場・レジャー施設を見ても必ずしもすべて閑古鳥が啼いているとは思えない。前述の通り国全体が守りの姿勢に入った様に見えるが、良い所もまだあるのである。私の子供の頃、親兄弟を食べさせる為に身売りする娘の話があった。あれがホントのホントの不況なのであろう。

マスコミの不況謳歌もいい加減にして、良い所、明るい所をもっと報道したら如何であろうか。経済は Anticipation の世界である。先行きが暗いと思えばどんどん悪くなる。

“偉い学者さん、マスコミさん、明るい方へ誘導して下さいよ”と云うのが私の昨今の心情である。

(株) ディーシーカード相談役・元社長/元(株)三菱銀行専務